

ひ

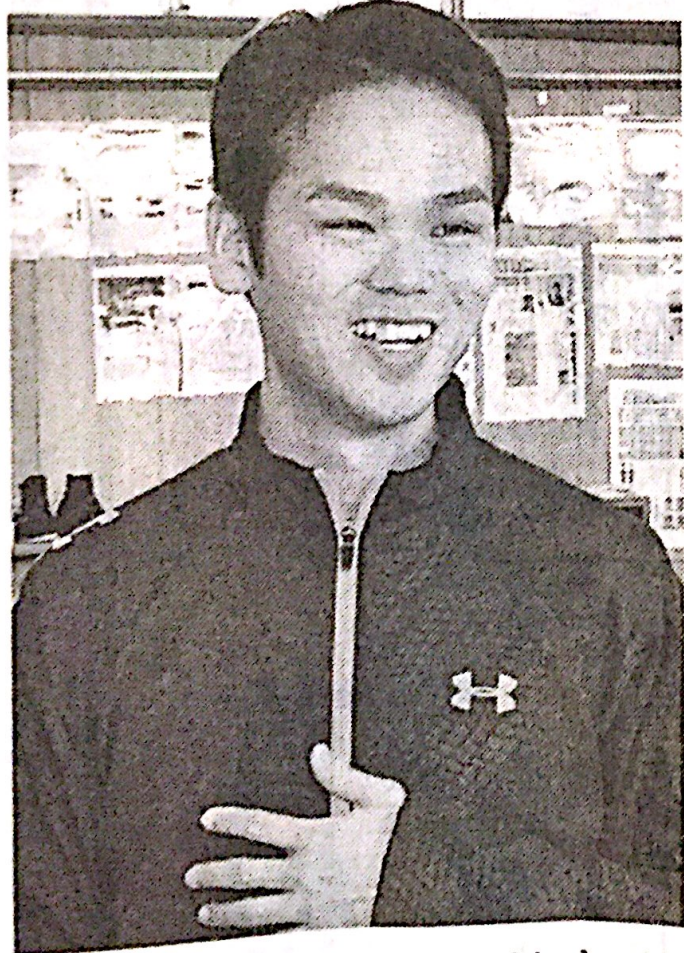
と

「けがで悩む選手を減らしたい」と、民間企業を辞め来月、トレーニングジムを設立する。

「日本では一般的でないが、米国ではアマチュアアスリートにトレーナーが付くのは当たり前。岩手にその土壤をつくりたい」と意欲を燃やす。

アスレチックトレーナー(AT)を志したのは故郷山口県周南市の徳山高卒業時。「もっとできたのでは」。サッカー部で誇れる成績を残せなか

アマチュア選手のけがをしない体づくりを目指し
トレーニングジムを設立する



さん 志 武 門 山

った悔しさからスポーツに関わる仕事を探した。重要性を実感した。重要性的を実感した。「本場で勉強しよう」自己流の練習を振り返り、身近にいなかったトレーナーの存在を知ったとき「これだ」と思った。福岡市の専門学校に進み選手強化のトレーニング方法を学ぶ。現場実習でけがに悩む中学生から相談を受け、けがをしな

てを考え妻知美さん(1)の古里金ヶ崎町に移住その後、北上市に移り14年春から本県国体卓球チームのATを務める。勤務の関係で和歌山に最後まで帯同できなかったことなどに「これでトレーナーと言えるか。やりたいことと違」と自問自答。「ATの資格だけでは生計は立てられない」との通説なんて結果を出して覆したい」とジム設立を決意した。長女柚巴ちゃん(4)、長男魁士君(2)は小さいが「若い選手を支えたい」との熱い思いで一步を踏み出す。31歳。

(北上支局・磯崎真澄)